

2017/11/16

柏の景気情報（平成29年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成29年10月分）

○ 調査期間 : 平成29年10月27日 ~ 平成29年11月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	20	45.5%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	20	46.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年10月の調査結果のポイント】

◀業況DIはほとんどの業種で再び悪化。先行きも慎重な見方が残り横ばいの見通し▶

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が9.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲15.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△26.6)、製造業±0.0(同△15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲60.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「小規模工事は多い。照明のLED化が進んでいる。冬場に伴い暖房関係の需要が伸びるのを期待」(電気工事業)、「受注が減少しつつある」(一般土木建築工事業)、「高齢者住宅・保育施設関係の建物が増加。原材料は安定しているものの施工単価が下落」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは「下期に売上が集中するため売上高・採算・資金繰りは好転、従業員は不足傾向で原材料値上げが収益を圧迫する事が懸念。サーボモータ、LMガイドの入手が改善されず製造計画に大きく影響」(その他の機械部品製造業)、「かつての経済発展は働く人の生活を考えて成り立って来たが、近年極端な技術開発によって人的労働の場が減少。人間はどのように生かされるのか」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは「前月はかなり好調で十月上旬はほぼ夏物で対応できたが、その後最悪となり秋物を消化できなかった。下旬になって秋物が入荷するなどぐはぐな品揃えとなった」(婦人・子供服小売業)、「九月まで安定していた売上も、十月は昨年を下回る結果。野菜の生産出荷に影響し商品不足となり青果部門の売上下降、逆に精肉関連の売上は相場の影響もあり上昇。衣料品・住宅関連は客数ダウンし売上不振となった。」(その他各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは「日本の低金利政策がもたらす二重構造経済が鮮明になり良・悪の企業が二分化される。高株価企業は国策に乗り、そしてオンリーワンの特色ある会社。柏市企業も独自の特色ある企業に変身が必要か。」(投資顧問)、「事務機器の普及により筆記用具やノート等の販売減少が顕著」(その他の飲食料点小売業)、「標準貨物自動車運送約款が改正され、運賃の他積込料・取卸料・待機時間料を新たに設定できる事になり、荷主との合意は必要だが、単価の底上げになると期待」(一般貨物自動車運送業)、「高齢者の不動産売却案件が多い。空家にしていた不動産を処分し換金したい希望。人口減少・少子化でこれから住宅も余ってくるだろう」、「新築収益物件を取得したが、手持ちの既存収益物件と対比すると明らかに収益性が悪化。自己資金を厚めに入れて、この低金利でなければ採算に見合う計画は立てられないと実感」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、各業種より、「資格取得・講習会等が重なり、事務処理の複雑化も有り、作業・事務共に人手不足な状態」(その他職別工事業)、「来年度新卒者採用が無く人材不足に苦慮」(機械器具小売業)、「若者の不足が深刻。募集しても反応がない」(その他職別工事業)、「少しでも若手の新入社員を採用したいが、そこまでの決断は鈍っている」(印刷業)、「人手不足・採用難が直近の大きな課題。パート・アルバイトは時給単価を上げて募集状況に大きな変化は見られない。経費の増加・収益圧迫だけでなく、郊外出店や業務拡大を躊躇させる要因」(各種食料品小売業)との声が寄せられた。

◎天候不順(台風・長雨の影響)

各業種より、「全現場・全業種の工程がずれ、段取りの難しい日が続いている。晴れても施工がすぐには出来ないわけではないので上手くいかない」(その他の職別工事業)、「台風被害2週連続のダメージは大きい」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「雨の影響で客足が少ない中、ネットスーパー・ネット通販は前年を大きく上回るも全体のカバーをしきれなかった」(その他各種商品小売業)、「天候不順が大きく売上に影響している。特に週末は全て雨でイベント等に大打撃」(菓子パン小売業)「天候の悪さが全てに影響」(花・植木小売業)、「2週末連続の大型台風直撃の影響で大型団体の取消しや個人旅行の変更など多数」(旅行業)との声が寄せられた。

◎買物客減少

各業種より、「そごう閉店で柏駅前の人の流れが悪化。今後もそごう跡地利用不明で業績悪化であろう。金の高騰により商品価格も高騰、メーカーサイドは新規商品開発遅れる模様。円安による輸入品価格の高騰により部品代も高くなっており先が読めず」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「柏駅前東口の買物客減少が止まらない。出店・閉店のサイクルが早い」(各種商品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
見通し	▲12.6	△5.0	△6.2	▲60.0	△6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が9.7ポイント拡大した。

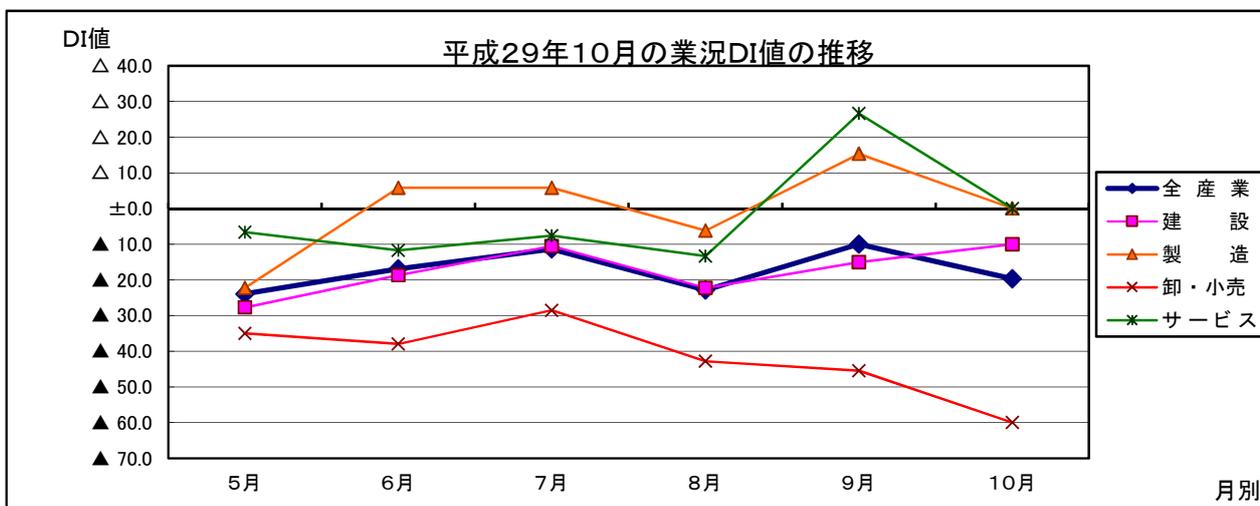
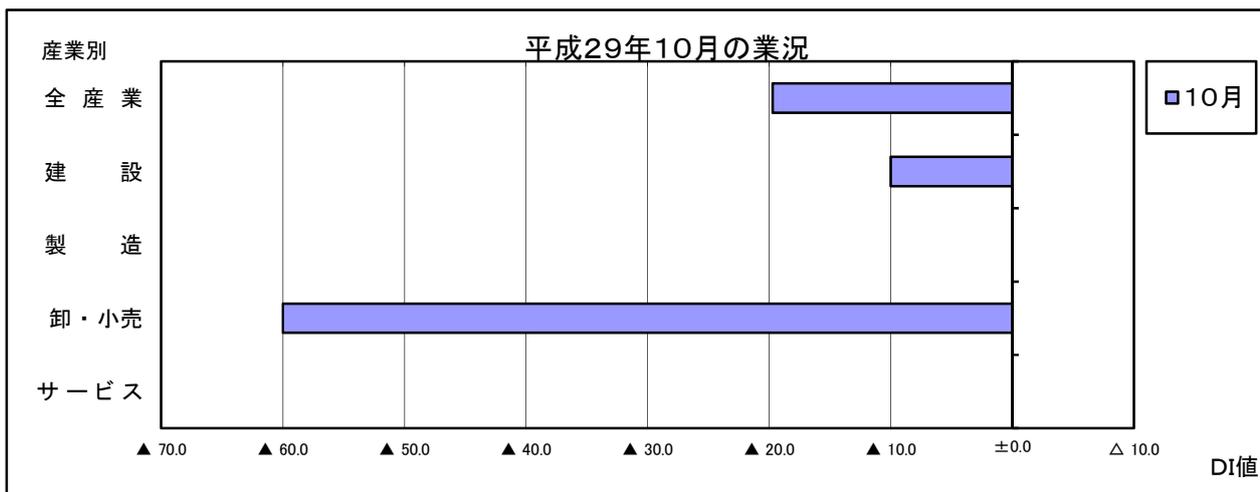
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲15.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△26.6)、製造業±0.0(同△15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲60.0(同▲45.4)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(同±0.0)、建設業△5.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6.2(同△7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲60.0(同▲36.3)である。

平成29年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲23.9	▲16.9	▲11.4	▲22.8	▲10.0	▲19.7	▲12.6(▲10.0)
建設	▲27.7	▲18.7	▲10.5	▲22.2	▲15.0	▲10.0	△5.0(±0.0)
製造	▲22.2	△5.8	△5.8	▲6.2	△15.3	±0.0	△6.2(△7.6)
卸・小売	▲35.0	▲38.0	▲28.5	▲42.8	▲45.4	▲60.0	▲60.0(▲36.3)
サービス	▲6.6	▲11.7	▲7.6	▲13.3	△26.6	±0.0	△6.6(±0.0)



【平成29年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

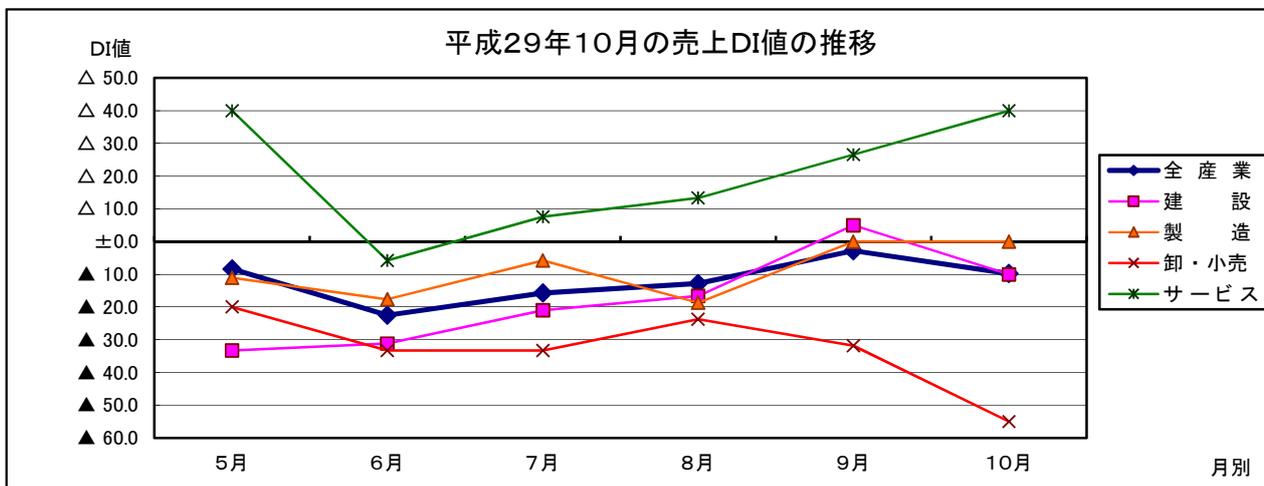
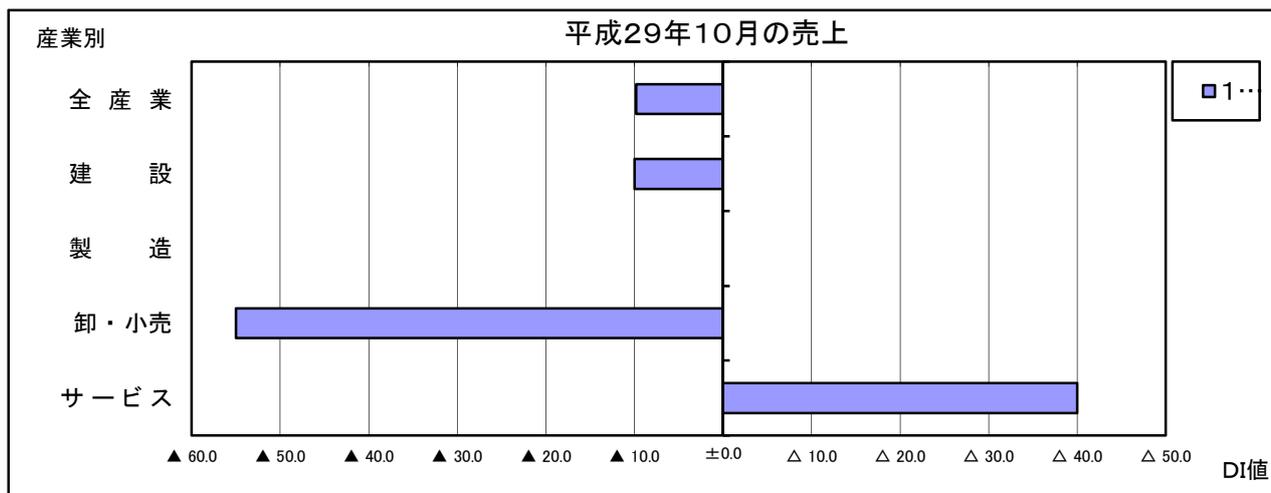
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△40.0(同△26.6)である。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲10.0(同△5.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲55.0(同▲31.8)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲2.8)となり、マイナス幅は2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△33.3(同△20.0)、製造業△12.5(同△7.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲35.0(同▲36.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△10.0)である。

平成29年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲8.4	▲22.5	▲15.7	▲12.8	▲2.8	▲9.8	±0.0(▲2.8)
建設	▲33.3	▲31.2	▲21.0	▲16.6	△5.0	▲10.0	±0.0(△10.0)
製造	▲11.1	▲17.6	▲5.8	▲18.7	±0.0	±0.0	△12.5(△7.6)
卸・小売	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲23.8	▲31.8	▲55.0	▲35.0(▲36.3)
サービス	△40.0	▲5.8	△7.6	△13.3	△26.6	△40.0	△33.3(△20.0)



【平成29年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.7(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅は12.5ポイント拡大した。

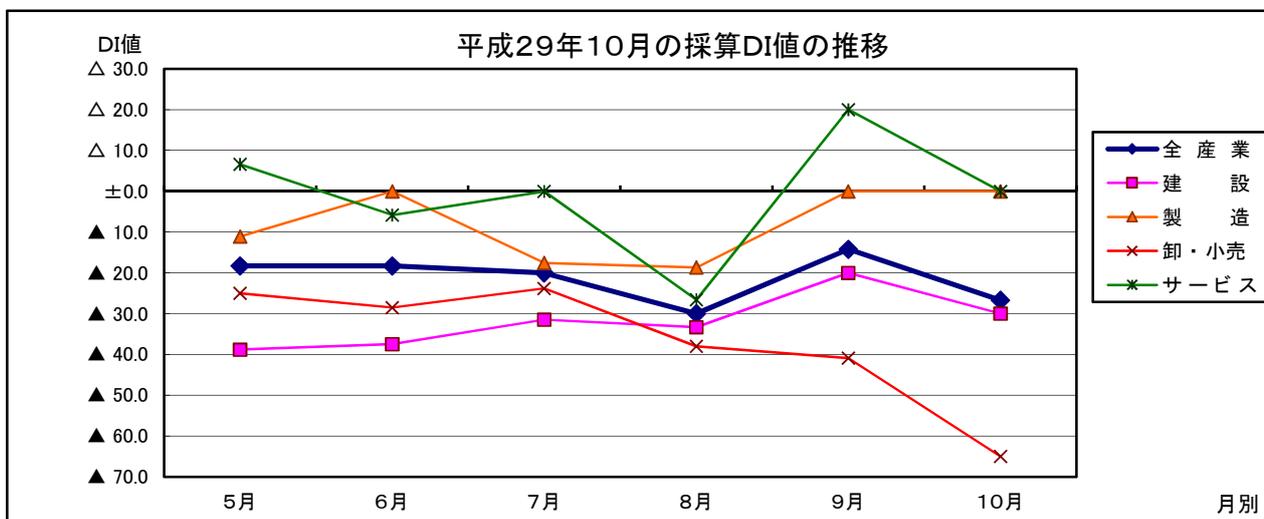
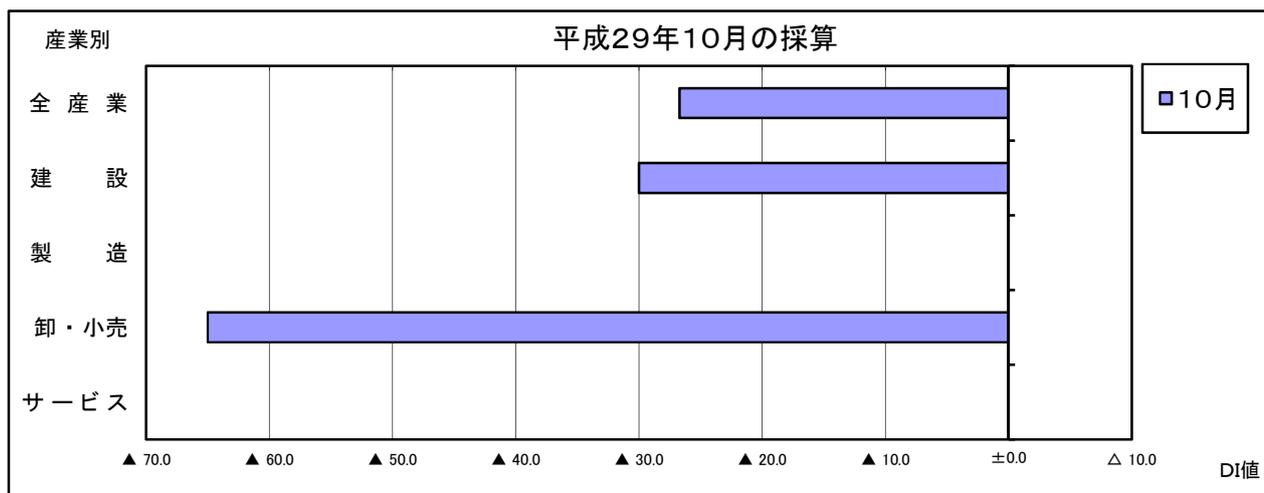
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲65.0(同▲40.9)、建設業▲30.0(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲12.8)であり、マイナス幅が1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲7.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.0(同▲45.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△6.6(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲20.0(同±0.0)である。

平成29年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲18.3	▲18.3	▲20.0	▲30.0	▲14.2	▲26.7	▲14.0(▲12.8)
建設	▲38.8	▲37.5	▲31.5	▲33.3	▲20.0	▲30.0	▲20.0(±0.0)
製造	▲11.1	±0.0	▲17.6	▲18.7	±0.0	±0.0	△6.2(▲7.6)
卸・小売	▲25.0	▲28.5	▲23.8	▲38.0	▲40.9	▲65.0	▲40.0(▲45.4)
サービス	△6.6	▲5.8	±0.0	▲26.6	△20.0	±0.0	△6.6(△13.3)



【平成29年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.6(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大した。

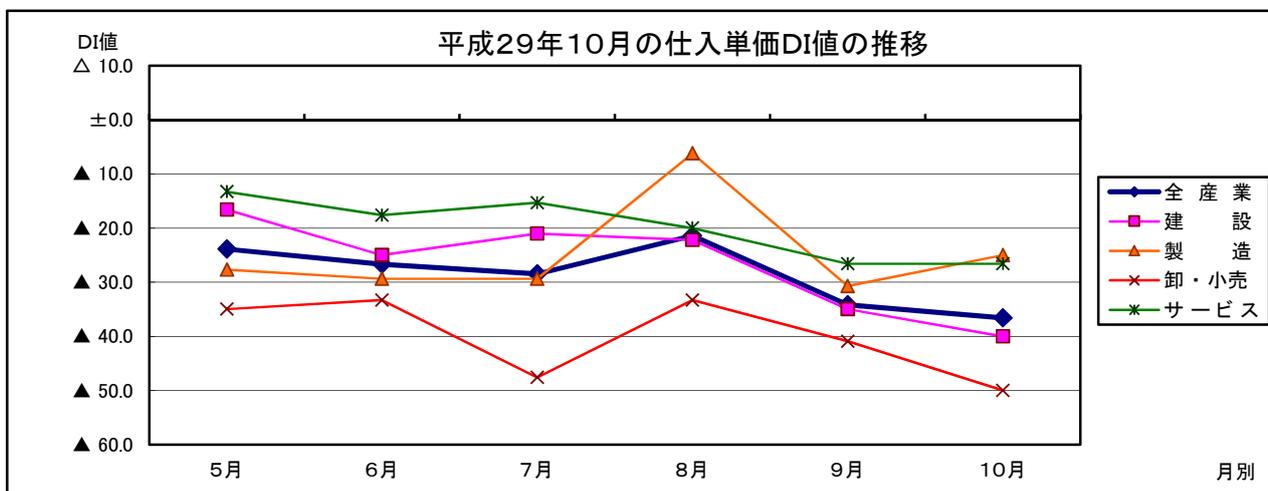
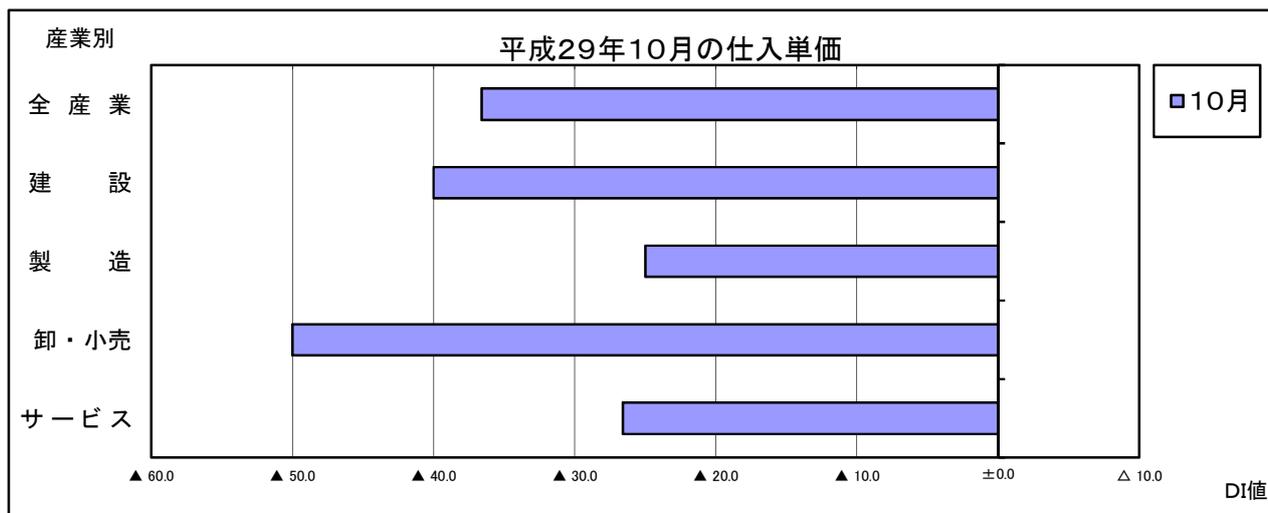
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲25.0(同▲30.7)である。変らない業種は、サービス業▲26.6(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲40.9)、建設業▲40.0(同▲35.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.9(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が6.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業▲20.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲31.8)、建設業▲25.0(同▲20.0)、製造業▲25.0(同▲23.0)である。

平成29年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲23.9	▲26.7	▲28.5	▲21.4	▲34.2	▲36.6	▲30.9(▲24.2)
建設	▲16.6	▲25.0	▲21.0	▲22.2	▲35.0	▲40.0	▲25.0(▲20.0)
製造	▲27.7	▲29.4	▲29.4	▲6.2	▲30.7	▲25.0	▲25.0(▲23.0)
卸・小売	▲35.0	▲33.3	▲47.6	▲33.3	▲40.9	▲50.0	▲50.0(▲31.8)
サービス	▲13.3	▲17.6	▲15.3	▲20.0	▲26.6	▲26.6	▲20.0(▲20.0)



【平成29年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22.5(前月水準△22.8)となり、プラス幅が0.3ポイント縮小した。

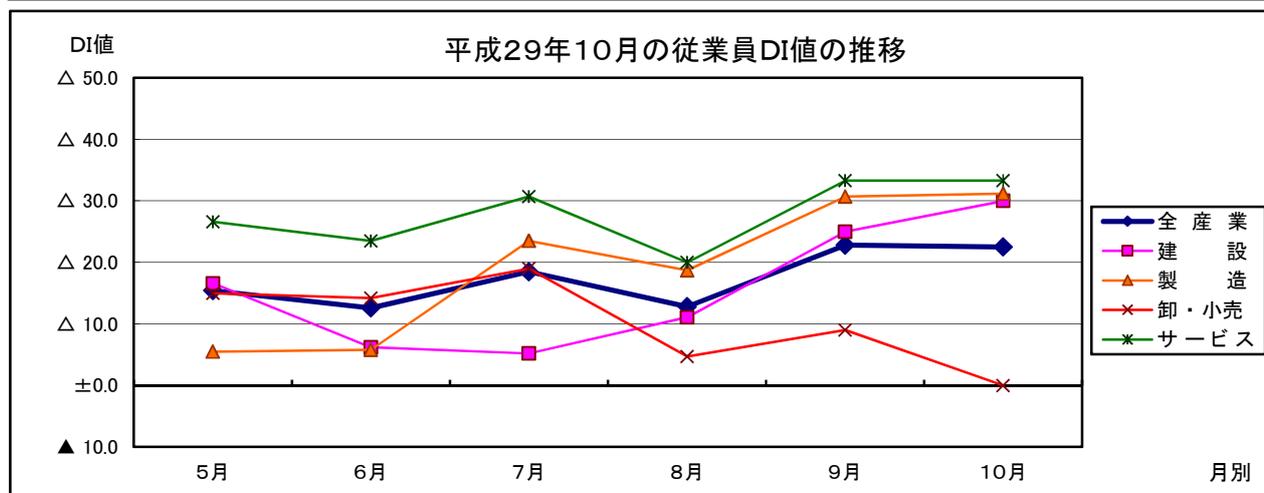
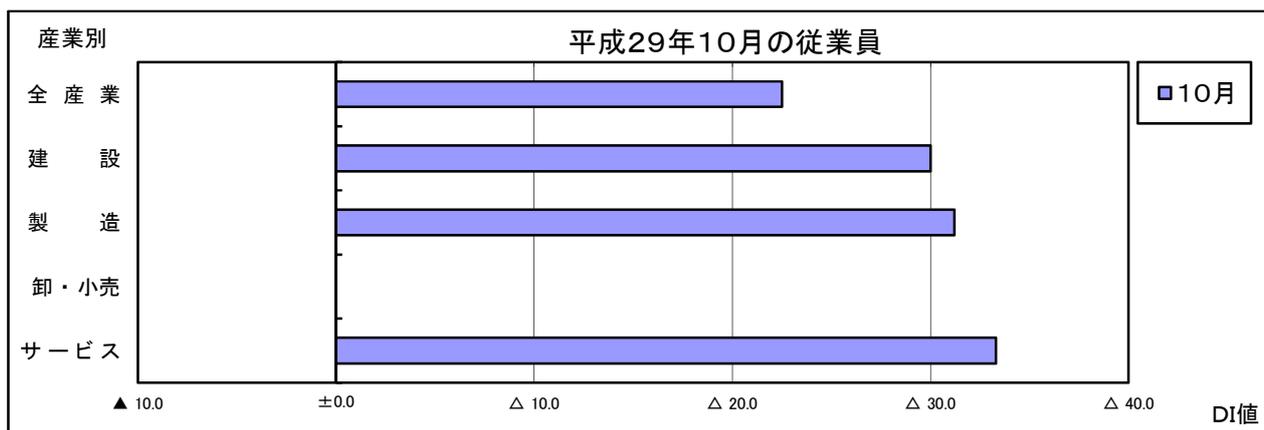
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△30.0(同△25.0)、製造業△31.2(同△30.7)である。変らない業種は、サービス業△33.3(同△33.3)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同△9.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.3(前月水準△18.5)であり、プラス幅が6.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△35.0(同△15.0)、製造業△37.5(同△30.7)である。変らない見通しの業種は、サービス業△33.3(同△33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同△4.5)である。

平成29年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	△15.4	△12.6	△18.5	△12.8	△22.8	△22.5	△25.3(△18.5)
建設	△16.6	△6.2	△5.2	△11.1	△25.0	△30.0	△35.0(△15.0)
製造	△5.5	△5.8	△23.5	△18.7	△30.7	△31.2	△37.5(△30.7)
卸・小売	△15.0	△14.2	△19.0	△4.7	△9.0	±0.0	±0.0(△4.5)
サービス	△26.6	△23.5	△30.7	△20.0	△33.3	△33.3	△33.3(△33.3)



【平成29年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.8(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が4.1ポイント拡大した。

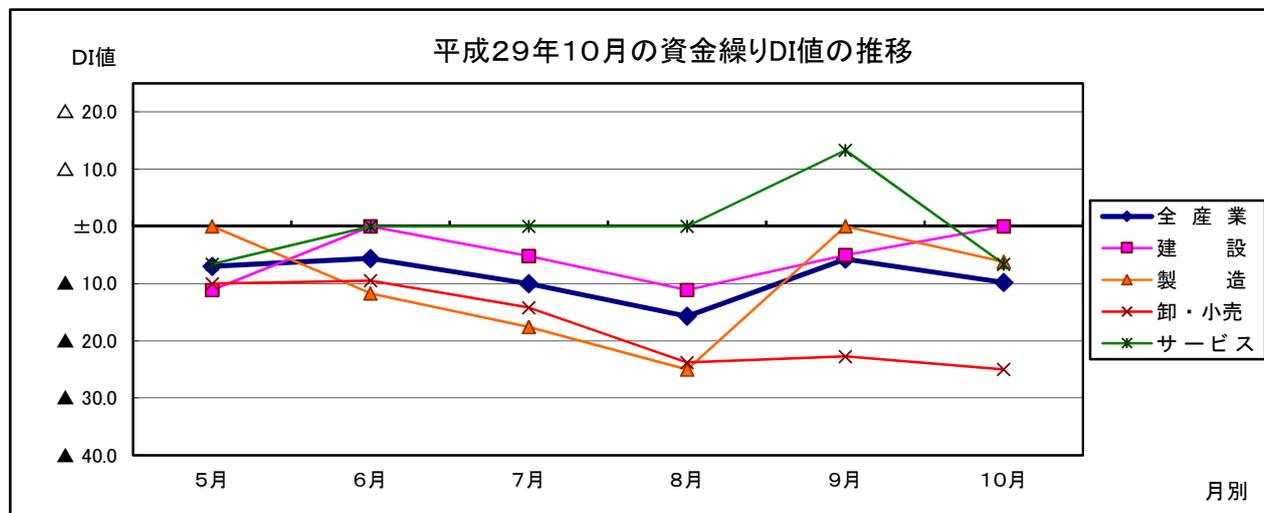
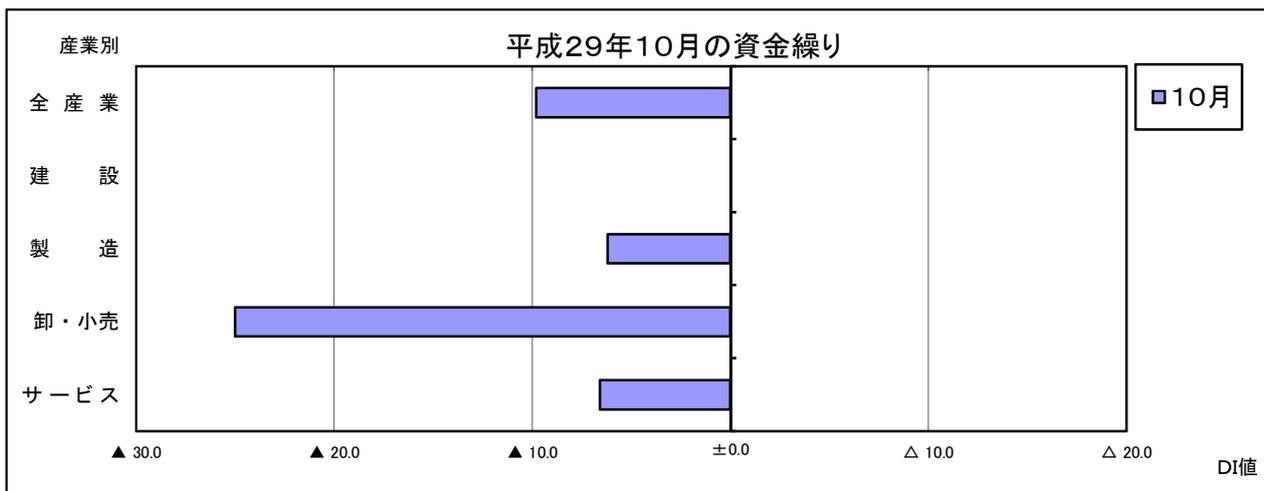
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲5.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同△13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.2(同±0.0)、卸小売業▲25.0(同▲22.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.4(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.6(同±0.0)、建設業△15.0(同△10.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲25.0(同▲27.2)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。

平成29年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲7.0	▲5.6	▲10.0	▲15.7	▲5.7	▲9.8	▲1.4(▲5.7)
建設	▲11.1	±0.0	▲5.2	▲11.1	▲5.0	±0.0	△15.0(△10.0)
製造	±0.0	▲11.7	▲17.6	▲25.0	±0.0	▲6.2	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲10.0	▲9.5	▲14.2	▲23.8	▲22.7	▲25.0	▲25.0(▲27.2)
サービス	▲6.6	±0.0	±0.0	±0.0	△13.3	▲6.6	△6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 9.8	±0.0	▲ 26.7	▲ 14.0	▲ 36.6	▲ 30.9	△ 22.5	△ 25.3
建設	▲ 10.0	±0.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 25.0	△ 30.0	△ 35.0
製造	±0.0	△ 12.5	±0.0	△ 6.2	▲ 25.0	▲ 25.0	△ 31.2	△ 37.5
卸・小売	▲ 55.0	▲ 35.0	▲ 65.0	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 50.0	±0.0	±0.0
サービス	△ 40.0	△ 33.3	±0.0	△ 6.6	▲ 26.6	▲ 20.0	△ 33.3	△ 33.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.7	▲ 12.6	▲ 9.8	▲ 1.4
建設	▲ 10.0	△ 5.0	±0.0	△ 15.0
製造	±0.0	△ 6.2	▲ 6.2	±0.0
卸・小売	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 25.0	▲ 25.0
サービス	±0.0	△ 6.6	▲ 6.6	△ 6.6

【平成29年10月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピックス	業種
建設	小規模の工事は多い。照明のLED化が進んでいる。冬場に伺い暖房関係の需要が伸びるのを期待。	工事増加 LED化 暖房需要	電気工事業
	受注が少なくなりつつあります。	受注減少	一般土木建築工事業
	雨の影響で全現場、全業種の工程がずれ毎日毎日段取りが難しい日が続いている。晴れても施工がすぐに来るわけではないので、余計に段取りが上手くいかない。資格取得、講習会等も重なり、事務処理の複雑化も有り、作業・事務共に人手不足な状態。物件としては高齢者住宅、保育施設関係の建物が増えている。原材料は現在安定しているものの施工単価が下落している。	天候不順 工程困難 人手不足 福祉関連増加 材料安定 単価下落	その他の職別工事業
	来年度の新卒者の採用が無く、人材の不足に苦慮。	人手不足	機械器具小売業
	借金の返済先送り、エネルギー政策の転換なしの原子力発電所の再稼働、福島原発事故の解明と終息なしの現政権反対。	現政権の政策	内装工事業
	若者の不足が深刻になって来ている。募集しても反応がない。	人手不足	その他の職別工事業
	少しでも若手の新入社員を採用したいが、そこまでの決断はにぶっている。全て設備投資しだいなのだが。	人手不足	印刷業
製造業	例年、下期に売上が集中するため売上高、採算は好転、資金繰りも好転し従業員は不足傾向にあるが原材料の値上げが収益を圧迫することが懸念される。サーボモータ、LMガイドの入手性が改善されず製造計画に大きく影響している。	下期好調 人手不足 仕入増加 収益圧迫	その他の機械・同部品製造業
	かつての経済発展は働く人達の生活を考えて成り立って来たけれど、近年極端な技術開発によって人的労働の場が減少しつつある。生身の人間はこれからどのように生かされて行くのだろうか。	技術開発 労働減少	印刷業
	前月はかなり好調で10月上旬はほぼ夏物でも対応できる天候であったが、その後最悪となり秋物を消化できなかった。下旬になっても秋物が入荷するなどちぐはぐな品様へと変わった。	天候不順	婦人・子供服小売業
卸小売	台風被害2週連続のダメージは大きい。柏駅前そごう閉店中人の流れ悪化、この先のそごう跡地利用不明で今後も業績悪化であろう、金の高騰により商品価格高騰でメーカーサイドも新規商品開発遅れる模様。円安による輸入品価格の高騰により部品代も高くなってきており先が読めず。	天候不順 人通り悪化 駅前業績悪化 金高騰 円安	時計・眼鏡・光学機械小売業
	記録的な雨が多い月間で9月まで安定していた売上も10月は昨年を下回る結果となった。野菜の生産出荷に影響し商品不足になり青果部門の売上下降、逆に相場の影響もあり、精肉関連の売上は上昇。衣料品、住宅関連は月間を通し客数ダウンし売上不振となった。雨の影響で客足が少ない中、ネットスーパー・ネット通販は前年を大きく上回るも全体のカバーをしきれなかった。	天候不順 売上減少 野菜不足 精肉好調 ネット販売好調	その他の各種商品小売業
	柏駅前(東口)の買物客減少が止まらない。店舗の出店、閉店のサイクルが早い。	駅前客数減少	その他の各種商品小売業
	人手不足・採用難が直近の大きな課題。パート・アルバイトに関しては、時給単価を上げたとしても募集状況に大きな変化は見られない。これによる影響は、経費の増加・収益の圧迫だけでなく、郊外への出店や業務の拡大を躊躇させる要因として考えています。	人手不足 経費増加 収益圧迫	各種食料品小売業
	10月に入ってから天候不順が大きく売上に影響している。特に週末は全て雨でイベント等に大打撃！最悪の10月です。	天候不順	菓子・パン小売業
	天候の悪さが全てに影響しています。	天候不順	花・植木小売業
	株価の方が先行、世界的な金余り。特に日本の低金利政策がもたらす二重構造経済が鮮明に。増々(好)(悪)の企業が二分化される。高株価企業は国策に乗ったそしてオンリーワンの特色のある会社。柏市企業も独自の特色ある企業に変身が必要か。柏市も高島屋及び大手企業の高採算が目につく。	二極化 特色ある企業 大手企業採算増加	投資顧問
その他の飲食料品小売業	人手不足のおり、特に主婦層が短時間労働の就労をしている傾向にあり、当店の来店客の大半が子供さんのいる主婦層なので午前中の来店客が半減している。また、近年事務機器の普及により筆記用具(鉛筆、ボールペン、カラーペン)やノート等の販売減少が顕著。パートさんの募集が皆無、社員の採用で対応している部門もあり経費の削減が課題。	人手不足 事務機器普及 文房具減少	その他の飲食料品小売業
	標準貨物自動車運送約款が改正され、運賃の他積込料・取卸料・待機時間料を新たに設定できる事になり、荷主との合意が必要ですが、単価の底上げになると期待しております。	運送約款改正	一般貨物自動車運送業

【平成29年10月業種別業界内トピックス】

サービス業	<p>2週末連続の大型台風直撃の影響で、大型団体の取消しや個人旅行の変更など多数。すでに次年度の社員旅行、特に海外案件の引き合いが多くなってきた。企業の出張増、個人旅行の回復、インバウンドの増加で、国際線需要が拡大しているため、早めの手配が肝要。反面、海外旅行の敷居が下がっていることやネットで簡単に手配できることなどから、個人旅行のみならず団体旅行の動き出しも間際化しており、海外団体においては、希望日程で手配できないケースが増えてきている。海外政治情勢により、グアムや韓国が敬遠され、ハワイや台湾が人気。</p>	<p>天候不順 次年度案件 海外需要増加 海外政治情勢</p>	<p>旅行業</p>
	<p>高齢者の方が不動産を売却したいという案件が多くなっています。空家にしたままにしていた不動産を処分して換金したいという希望です。これも時代の要請なのでしょう。人口の減少・少子化でこれから住宅も余ってくるでしょう。</p>	<p>高齢者不動産処分</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>そごうのビルが空きビルになっているだけで印象が悪い。上手く使える方法はなかったのだろうか？会頭も所有ですから。</p>	<p>空きビル悪印象</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>本年、新築収益物件を取得しましたが、手持ちの既存収益物件と対比してみても明らかに収益性が悪化している。自己資金を厚めに入れて、この低金利でなければ採算に見合う計画は立てられないと実感しています。</p>	<p>不動産悪化</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>人手不足が深刻な状態。ただ、頭数とならず特技を目指す新しい人材が必要な状況。</p>	<p>人手不足</p>	<p>ソフトウェア業</p>

平成29年9月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が5.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.8に対し、「CCI-LOBO」が▲8.5で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、建設業・サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.2に対し、「CCI-LOBO」が▲14.4で柏の方がマイナス幅が0.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI-LOBO」が▲32.5で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△22.8に対し、「CCI-LOBO」が△23.8で柏の方がプラス幅が1.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.7に対し、「CCI-LOBO」が▲8.0で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業である。

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年10月27日～11月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
見通し	▲12.6	△5.0	△6.2	▲60.0	△6.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはほとんどの業種で再び悪化。先行きも慎重な見方が残り横ばいの見通し

十月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が9.7ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲15.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△2.6)、製造業±0.0(同△15.3)であ

る。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲60.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「小規模工事は多い。照明のLED化が進んでいる。冬場に伴い暖房関係の需要が伸びるのを期待(電気工事業)」、「受注が減少しつつある」(一般土木建築工事業)、「高齢者住宅・保育施設関係の建物が増加。原材料は安定しているものの施工単価が下落(職別工事業)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「下期に売上が集中するため売上高・採算・資金繰りは好転、従業員は不足傾向で原材料値上げが収益を圧迫する事が懸念。サーボモータ、LMガイドの入手が改善されず製造計画に大きく影響」(その他の機械部品製造業)、「かつての経済発展は働く人の生活を考えて成り立って来たが、近年極端な技術開発によって人的労働の場が減少。人間はどのように生かされるのか」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前月はかなり好調で十月上旬はほぼ夏物で対応できたが、その後最悪となり秋物を消化できなかった。下旬になって秋物が入荷するなどちぐはぐな品揃えとなった」(婦人・子供服小売業)、「九月まで安定していた売上も、十月は昨年を下

回る結果。野菜の生産出荷に影響し商品不足となり青果部門の売上下降、逆に精肉関連の売上は相場の影響もあり上昇。衣料品・住宅関連は客数ダウンし売上下降となった。」(その他各種商品小売業、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「日本の低金利政策がもたらす二重構造経済が鮮明になり良悪の企業が二分化される。高株価企業は国策に乗り、そしてオンリーワンの特色ある会社。柏市企業も独自の特色ある企業に変身が必要か。」(投資顧問)、「事務機器の普及により筆記用具やノート等の販売減少が顕著」(その他の飲食料品小売業)、「標準貨物自動車運送約款が改正され、運賃の他積込料・取卸料・待機時間料を新たに設定できる事になり、荷主との合意は必要だが、単価の底上げになると期待」(一般貨物自動車運送業)、「高齢者の不動産売却案件が多い。空家にしていった不動産を処分し換金したい希望。人口減少・少子化でこれから住宅も余ってくるだろう」、「新築収益物件を取得したが、手持ちの既存収益物件と対比すると明らかに収益性が悪化。自己資金を厚めに入れて、この低金利でなければ採算に見合う計画は立てられないと実感」(不動産賃貸・管理業)など

どのコメントが寄せられた。

10月の景気キーワード

◎人手不足

各業種より、「資格取得・講習会等が重なり、事務処理の複雑化も有り、作業・事務共に人手不足な状態」(その他職別工事業)、「来年度新卒者採用が無く人材不足に苦慮」(機械器具小売業)、「若者の不足が深刻。募集しても反応がない」(その他職別工事業)、「少しでも若手の新入社員を採用したいが、そこまでの決断は鈍っている」(印刷業)、「人手不足・採用難が直近の大きな課題。パート・アルバイトは時給単価を上げても募集状況に大きな変化は見られない。経費の増加・収益圧迫だけでなく、郊外出店や業務拡大を躊躇させる要因」(各種食料品小売業)との声が寄せられた。

◎天候不順・台風・長雨の影響

各業種より、「全現場・全業種の工程がずれ、段取りの難しい日が続いている。晴れても施工がすぐに出来るわけではないので上手くいかない」(その他の職別工事業)、「台風被害2週連続のダメージは大きい」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「雨の影響で客足が少ない中、ネットスーパー・ネット通販は前年を大きく上回るも全体のカバーをしきれなかった」(その他各種商品小売業)、「天候不順が大

きく売上に影響している。特に週末は全て雨でイベント等に大打撃」(菓子パン小売業)「天候の悪さが全てに影響」(花・植木小売業)、「2週末連続の大型台風直撃の影響で大型団体の取消しや個人旅行の変更など多数」(旅行業)との声が寄せられた。

◎買物客減少

各業種より、「ここ閉店で柏駅前の人流れが悪化。今後ともこの跡地利用不明で業績悪化であろう。金の高騰により商品価格も高騰、メーカーサイドは新規商品開発遅れる模様。円安による輸入品価格の高騰により部品代も高くなっており先が読めず」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「柏駅前東口の買物客減少が止まらない。出店・閉店のサイクルが早い」(各種商品小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲19.7に対し、「CCI-TOBO」が▲16.0で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、10ポイント以上良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成29年10月16日～20日

調査対象：全国の422商工会議所が3861企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、ほぼ横ばい。
先行きは慎重な見方残るも、
緩やかな回復を見込む

十月の全産業合計の業況DIは、▲16.0と、前月から▲0.7ポイントのほぼ横ばい。電子部品、自動車、産業用機械関連の生産や、インバウンドを含む観光需要が引き続き堅調に推移した。他方、公共工事の不服感を指摘する声が増えたほか、長雨などの天候不順による客足減少、人手不足の影響拡大、運送費・原材料費の上昇、消費者の低価格志向を指摘する声も多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復基調が続いているものの、そのマインドには依然として鈍さが見られ、足元でほぼ横ばいの動きとなっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.1(今月比+1.9ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。輸出や設備投資の堅調な推移や株高進行による個人消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大などへの期待感がうかがえる。他方、人件費の上昇や受注機会の損失など人手不足の影響の

深刻化、運送費・原材料費の上昇などを懸念する声も多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方が残っている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業で改善、製造業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

・「鉄鋼や合板などの建材価格が上昇傾向にあり、採算は悪化。公共工事の発注量に陰りが見え始めており、手持ち工事が不足している」(土木工業業)

・「民間工事を中心に工事案件は豊富なため、売上は改善した。だが、自社の人手不足のほか、下請企業の人手不足も深刻なため、受注を見送ることが増えている」(一般工業業)

【製造業】

・「新造船需要の低迷で取引先からの発注が減り、売上・採算は悪化が続いてきたが、

ようやく新規受注が決まり、今後の生産活動の見通しが立ってきた」(金属製品製造業)

・「世界的な需要増で、自動車やロボット関連からの引き合いが多く、売上は改善。すでにフル生産の状態だが、それでも需要増に追い付かない」(電子部品製造業)

【卸売業】

・「建設業の民間工事受注が堅調で、売上は改善。幹線道路沿線では、インバウンド需要獲得を目指し、ホテル建設など不動産活用の動きがあり、今後の受注増が期待できる」(建設資材等卸売業)

・「運送費や仕入価格の上昇により収益が圧迫されている。販売価格への転嫁は難しいため、利益率の高い商品へ転換するなど仕入商品を見直し、粗利の確保に努める」(飲食料品卸売業)

【小売業】

・「長雨などの天候不順により大幅に客数が減少した。最低賃金上昇によりコスト増が見込まれるが、消費者の生活防衛意識や競合他社の価格設定などを考慮すると値上げには踏み切れない」(スーパーマーケット)

・「気温の低下に伴い秋冬物衣料に動きが見られたことに加

え、インバウンド需要が引き続き好調で、売上は改善した。ハロウィンをテーマにしたイベント開催の効果も出ている」(百貨店)

【サービス業】

・「売上は堅調だが、人材の確保に苦戦している。求人に必要な費用が売上の2%近くに達するなど、利益が大幅に圧縮され、採算悪化となった」(飲食業)

・「自動車関連等の製造業や建設業からの引き合いが好調で、鉄鋼やアルミなどを中心に配送需要が増加した」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲16.2	▲15.8	▲12.2	▲12.0	▲36.5	▲5.4
6月	▲14.5	▲14.3	▲8.6	▲8.6	▲32.1	▲8.8
7月	▲16.1	▲13.3	▲9.5	▲11.9	▲33.9	▲11.7
8月	▲18.2	▲14.2	▲6.9	▲17.0	▲36.3	▲17.2
9月	▲15.3	▲7.4	▲10.1	▲19.2	▲31.4	▲10.8
10月	▲16.0	▲11.4	▲9.3	▲13.1	▲34.6	▲12.8
見通し	▲14.1	▲8.9	▲9.1	▲13.9	▲28.4	▲11.9